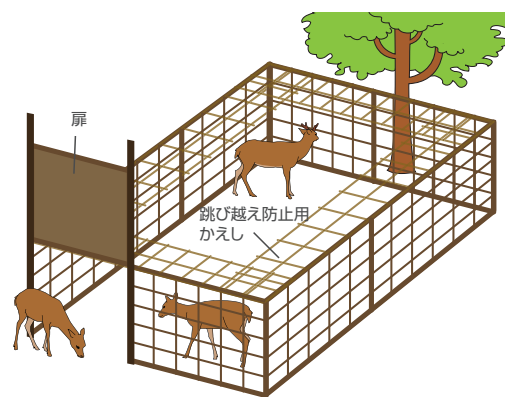
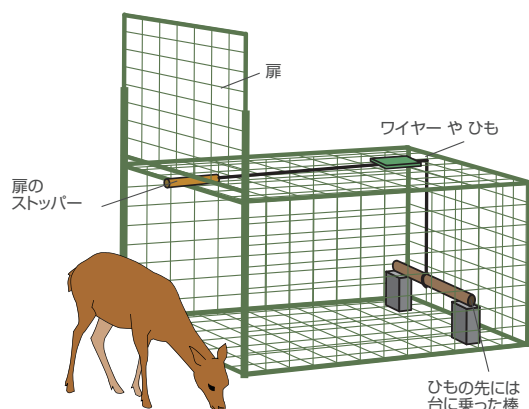


箱わなと囲いわなによるシカ捕獲の基本

▼ わなの特性を知り、シカの生息状況や予算を考慮して選びましょう。

各わなの比較	捕獲方法	難易度	購入費用	移動性
箱わな	餌づけによる捕獲	容易	高い	中
囲いわな				ほとんどなし※
くくりわな	動物に気づかれないよう捕獲	難しい	安い	高い

※ 移動性の高い組み立て式の囲いわなも開発されています。



箱わな

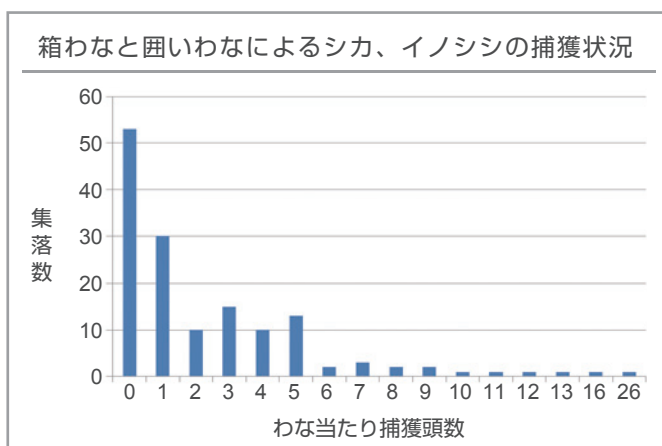
箱わなは、移動や設置は比較的楽ですが、1回あたりの捕獲数は、通常1頭です。

囲いわな

囲いわなは、設置の費用や労力はかかりますが、面積が広いぶん、工夫次第で1回にたくさんの獲物を捕獲できます。

▶ 箱わなと囲いわなの捕獲状況

グラフで見ると、大半は年に0～1頭しか捕獲できていませんが、効果的にわなを使えば、箱わなでも1年に4～5頭は捕れるようになります。これから示す手順を参考に、効率の良い捕獲を目指しましょう。



(H21 兵庫県内の捕獲データより作成)

▼ 基本的な捕獲の手順は以下の通りです。

1 場所を決める

2 餌づけで誘引

3 餌づけを続けて警戒心を解く

4 捕獲する

5 殺処分

1 場所を決める

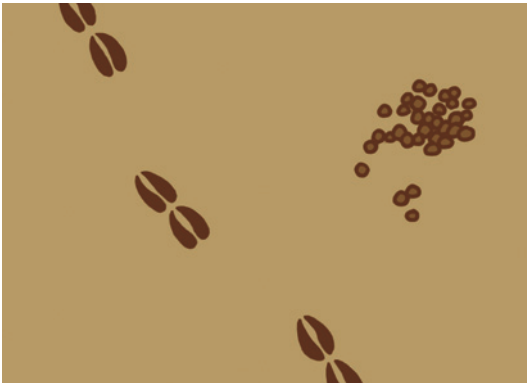
獲物が多い場所、よく通る場所を探して
わなを仕掛けましょう！

資材の運搬や管理のしやすい場所を選ぶことも必要ですが、シカが出没する場所を選ばなければ、効果的に捕獲できません。



1 出没状況の確認

- ① 広い範囲から候補地を選ぶには、夜間にサーチライトを使って、出没状況を確認するのが効率的です。
- ② 地域の出没状況を知るには、何度かパトロールして見ることをお勧めします。



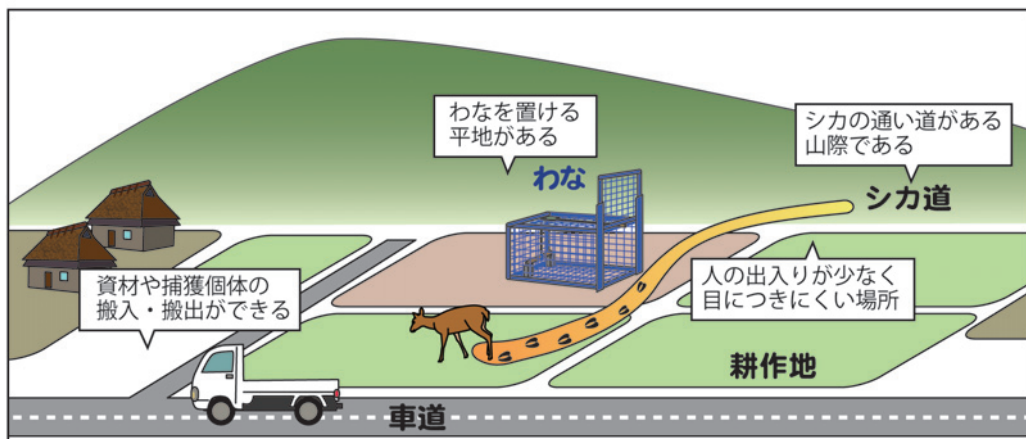
2 痕跡の確認

範囲が絞られたら、足跡や糞、獣道などから、わなを置く位置や方向を決めます。

3 わなの設置場所の選定

- 獲物がよく出る場所
- 山から近い場所
- 車でのアクセスがよい場所
- 設置に適した平坦な場所
- 人の出入りが少ない場所
- 土地所有者の了解が得られる場所

捕獲効率の向上には、
動物の都合と人間の都合を両立
できる場所を選ぶことが重要です。



2 餌づけで誘引

獲物は、はじめは警戒しながら餌を食べています。
捕るのは後、警戒心を解くのが先です。

1 餌づけで獲物の様子を確認

わなを仕掛ける前に、まず餌を撒いて食べるかどうかを、確認します。

■ 餌の比較

餌選びのポイントは、誘引力、費用、扱いやすさ（腐りにくさや入手しやすさ）です。

条件に合った複数の餌を撒いて、その時期、その場所で一番よく食べる餌を選びましょう。

	米ぬか	野菜	濃厚飼料 [※]	粗飼料 [※]
誘引力	強い	強い	強い	普通
費用	安い	安い	高い	高い
扱いやすさ	楽	難	楽	楽
誤捕獲の危険	高い	低い	高い	低い
一般的な特徴	費用がかからず扱いやすいです。誘引効果も強いですが、クマやイノシシなども誘引します。	新鮮であれば野菜くずで十分です。費用はかかりませんが、入手しにくい時期があり、保存もきかないので扱いやすさに難があります。	費用がかかりますが、入手や扱いは楽です。誘引効果に差がありますが、時期によっては粗飼料でも有効です。濃厚飼料はクマやイノシシなども誘引します。	[※] 家畜用の餌です。濃厚飼料とは主に穀類と製造粕類を含む餌を指し、粗飼料とは主に乾燥牧草のことを指しています。

2 誘引状況の確認

- ① 周辺の草刈り等をして、わなを設置しやすく、餌も食べやすいようにしておきます。
- ② 餌の減り具合や足跡、糞などの痕跡を確認して、獲物の誘引状況を確認します。



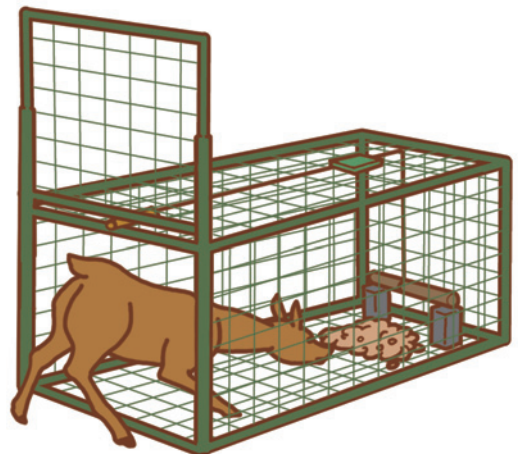
3 シカの習慣性

餌づけしたシカは、繰り返し出てきます。餌づけをしばらく続けると、警戒心もだんだん弱くなり、わなの中に入りやすくなります。群れで行動するシカの場合、すべての個体に餌の味を覚えさせることが重要ですが、待ち過ぎると行動が変わることもあるので決断も必要です。

4 わな設置

はじめは、捕獲時とできるだけ同じ状態にして、わなの扉だけは落ちないように固定します。
餌が全部食べられたら、次のステップに進みましょう。

- ① わな付近の獣道に餌を撒きます。
- ② わなの周辺や入り口付近に撒きます。
- ③ 扉は固定したまま、わなの中に餌を撒きます。

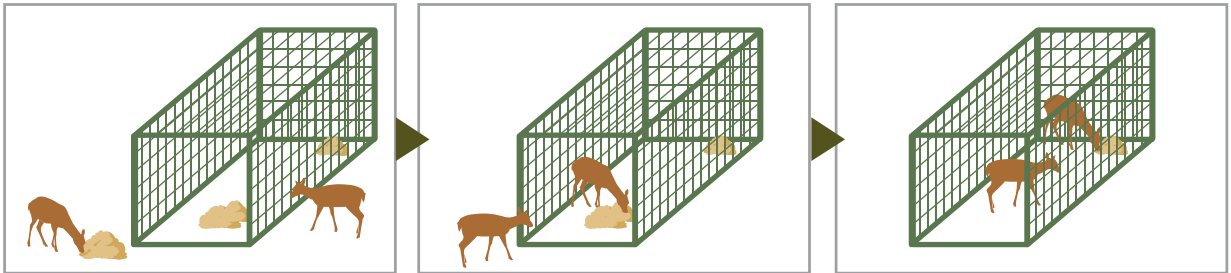


餌づけを続けて 警戒心を解く

餌を用いた捕獲で一番重要なポイントです。

餌づけを毎日継続することで、シカにわなを餌場として認識させることが大切です。

■ わな設置後の餌の撒き方 毎日、状況確認と餌の追加をしましょう。



▶ 警戒心の高い獲物も、餌撒きの工夫で徐々に慣らします。

- ① 餌づいてきたら、わなの外側に餌を置くのをやめます。
- ② 餌の減り方を見ながら、徐々にわなの奥に餌を集め、誘導します。
- ③ 警戒を解くには、早くても3日は必要です。
- ④ 毎日欠かさず、1日で食べきれぬ量の餌を撒きます。
- ⑤ 一番奥の餌が毎日完食されるようになれば、餌付け完了です！

成功のカギは餌づけが成功するかどうかにかかっています

▶ すぐにわな内の餌を食べないときも、1週間から10日は根気よく餌をやり続けましょう。

しばらく餌づけをしても誘引されない場合

時期や場所によっては、餌づけが難しい場合があります。

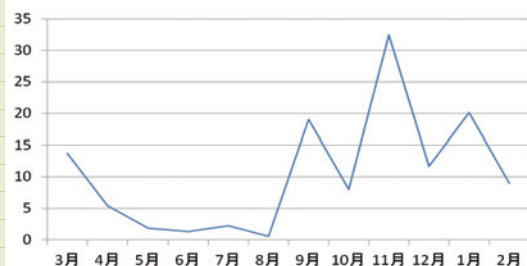
考えられる要因

- ・ 動物にとってより魅力的な餌が他にたくさんある
- ・ 季節により餌づけしにくい場合がある
- ・ わなを学習し警戒心が強い獲物がある … など

対応策

- ・ 餌の種類・工夫
- ・ 他の餌(農作物等)の管理
- ・ 場所を変える
- ・ 無理せずしばらく休む … など

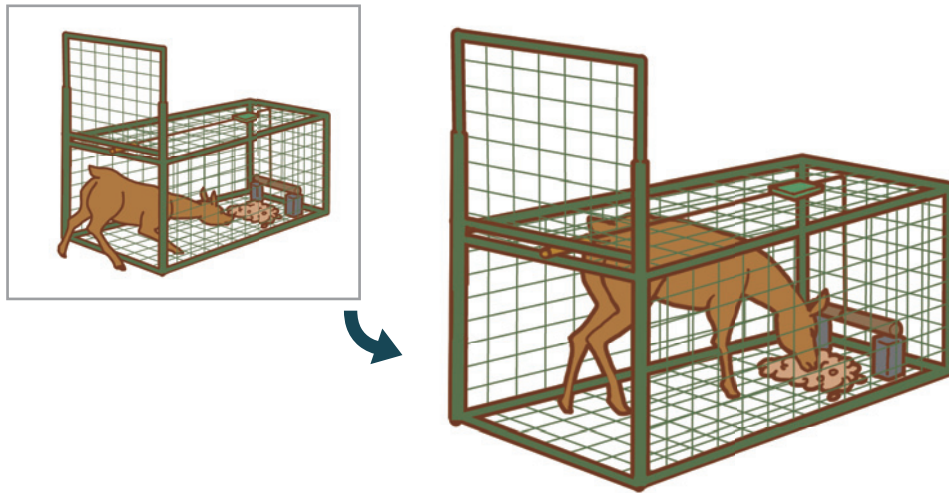
ドロップネットによるシカの月別捕獲状況(わな稼働率×捕獲数)



↑ 餌づけの効果は季節によって変動します。

わなの中の餌が食べられたときはチャンスです！

餌を食べさせ続け、警戒心を解き、しっかりとわなの奥へ誘導しましょう。



■ シカが安心してわなの奥まで入るようになったら、扉の固定を解除します。

※仕掛けのセットは、必ず捕獲の許可を受けた人が行ってください!!

- ① 餌を外から取られない程度に、なるべく奥の方に撒きます。
- ② 仕掛けをセットし、スムーズに扉が落ちるか、十分に予行演習をしてください。

箱わな捕獲の課題

▶ 一度に捕れる数に限りがある

箱わなは狭いので、餌づけた獲物を一度に捕りきることはできません。
逃げた動物の警戒心は、再び高まります。

対応策

- | | |
|---------|------------------------------|
| 十分な餌づけ | 事前の餌づけが十分であれば、高まった警戒心も解けやすい。 |
| 場所の移動 | 同じ場所は、しばらくあきらめて他の場所で効率的に捕獲。 |
| 囲いわなの導入 | 群れごと誘引して一網打尽に。 |

さらなる捕獲の効率化に向けて

▶ 囲いわなの導入

- わなの設置場所や一回の処理可能頭数に応じて、適切なわなサイズを選択しましょう。
- 飛び越え防止用のかえしをつけることで側壁の高さを低くすることができます。かえしの長さや強度は、わなのサイズに応じて調整しましょう。

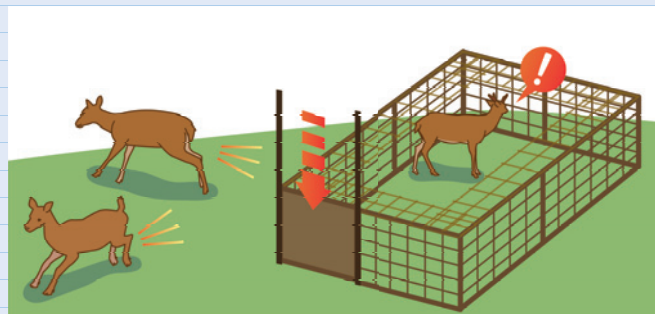
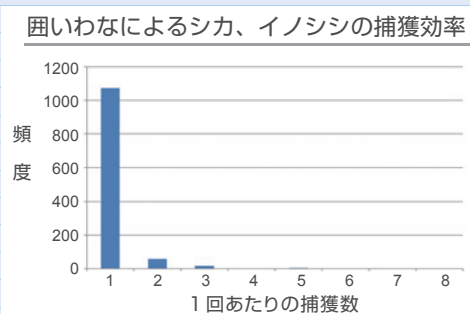
■ わなのサイズと捕獲可能数の対応

わなサイズ	3m×5m	4m×8m
かえしの長さ ※	50cm 程度	70 ~ 100cm 程度
捕獲数の目安	5 頭くらいまで	15 頭くらいまで

※ 側壁の高さが 2m のわなでの参考値です。

▶ 囲いわな捕獲の課題

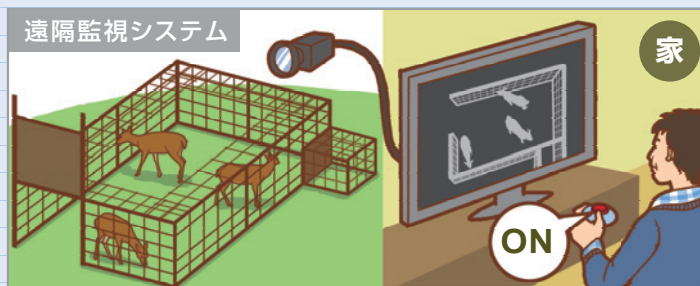
- 一般的な仕掛けでは、1 頭でもわなが稼働してしまうことがあります。



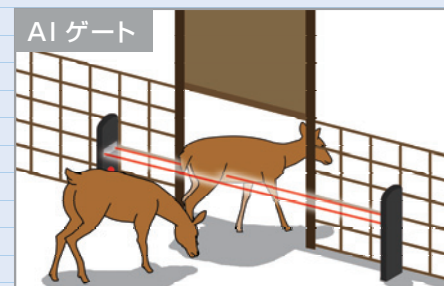
↑ 面積の広い囲いわなを使っても、9 割は 1 回の捕獲で 1 頭しか捕れていないのが現実です。(H19-21 兵庫県内の捕獲データより作成)



▶ 新技術導入による利点



捕獲者が実際にわな内の映像を見ながら捕獲のタイミングを決定できるので、1 回の捕獲でたくさんの獲物を捕獲することができます。



センサーでゲートを通る獲物の数を自動でカウントできます。毎日のカウント数に基づいて捕獲数を最大化できるプログラムを搭載しています。

5 殺処分

殺処分は地域によってルールが異なります。

詳しくは、お住まいの地域の自治体担当者までお問い合わせください。

1 殺処分を行う前に…

わなが大きい場合は、ポケットネットへ呼び込んでから殺処分を行なうとスムーズです。



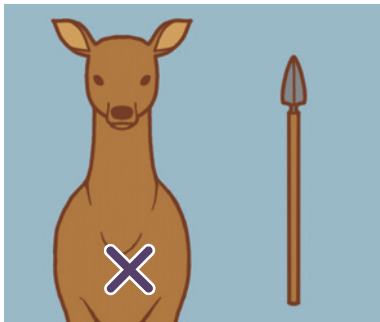
ゲート部にポケットネットをつけて、扉を開放します。補助者はゲート部へシカを誘導します。



シカがポケットネットに入ったら扉を閉じます。ネットの絞りをしめることで獲物を迅速かつ安全に保定することができます。一度にたくさん捕獲した場合には、この作業を繰り返します。

2 殺処分の方法

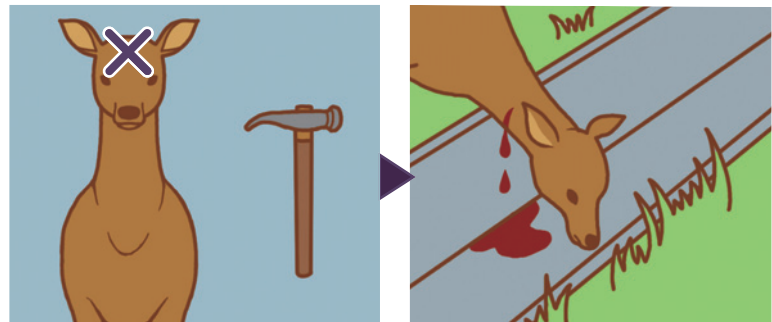
槍などによる殺処分



- ① 正面あるいはわき腹から頸動脈か心臓を狙って突きます。

※槍刺殺は、わなの格子の間から突くことが容易ですが、わな内がシカの血で汚れます

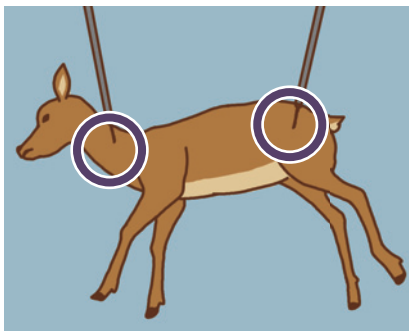
ハンマーによる殺処分



- ① 頭部をハンマーなどで叩きます。
- ② 獲物が失神したら、頸動脈か心臓にナイフを刺し、頭を下にして放血します。

※ハンマー打撃では、現場での流血はありませんが、わなの格子があると打撃が難しくなります。

電気を使った殺処分



- ① 2本の電極針を処置動物の上半身(頭部か頸部)と下半身(臀部)に、しっかりと突き刺して電流を流します。
- ② 一定時間、通電したら電源を切り、確実に処置動物が死亡していることを確認します。

※動物にも人間にも負担が少ない殺処分の方法です。
※通電中に処置動物に触れると感電するおそれがあるので、死亡確認などは、必ず電源を切ってから行いましょう。

ここに注意！ 箱わな・罠いわな捕獲のマナー

餌のやりすぎに注意

過剰な餌やりは、腐敗による悪臭などの問題を生む恐れがあります。

捕獲時の対応は迅速に

捕獲した獲物の放置は、捕獲効率の低下や事故につながる恐れがあります。

わなのメンテナンスは頻繁に

壊れかけのわなでの捕獲は、深刻な事故を引き起こす恐れがあります。

餌づけた獲物は確実に捕る

野生動物への餌づけは被害を助長する恐れがあります。

仕掛けのセットは最短で

捕獲待機状態のまま長期間放置すると事故が起こる恐れがあります。

※ その他、法律と地域のルールに従って、安全な捕獲を心がけましょう。



兵庫県立大学
自然・環境科学研究所

UNIVERSITY OF HYOGO Institute of Natural and Environmental Sciences



兵庫県
森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

〒669-3842 丹波市青垣町沢野940 TEL:0795-80-5500 FAX:0795-80-5506 HP: <http://www.wmi-hyogo.jp/>